

『グリーンフェア2012〜緑の敷島公園〜』

計画部 指導普及課

関東森林管理局では、昭和51年から森林・林業や国有林野事業に対する理解を深めていただくことを目的として、毎年4月にグリーンフェアを開催しています。

昨年までは、当局の庁舎敷地内で実施していましたが、庁舎の耐震工事により敷地内での実施が困難となったため、4月29日に県立敷島公園で行われた「敷島公園まつり」と共催で実施しました。

当日は、天候にも恵まれ、敷島公園まつりも含めて約1万2千人の県民の方々が来場され、当局で設けた2つのブースにも多数の方々を訪れていただきました。

1つ目のブースは、当局管内の小笠原諸島や福島県内の国有林などを紹介するコーナーを設けました。

小笠原諸島は、昨年6月に世界自然遺産に登録されており、登録地域に所在する森林のうち81%が国有林となっています。諸島に所在する国有林は、森林生態系保護地域に設定し、希少野生動植物の保全管理に努めています。来場者の皆さんに自然環境の保護につい

て考えていただく機会として、小笠原の風景や自然、国有林野で行っている保全事業などをDVD・パンフレットにより紹介しました。



DVD上映・パネル展示

また、東日本大震災により被害を受けた福島県内にも多くの国有林が所在しており、福島の魅力を紹介し多くの方に訪れていただくよう、自然観察・ハイキングなどを楽しんでいただける国有林の自然休養林や自然観察教育林をパネルにより紹介するとともに、赤谷森林生態系保全センターが群馬県利根郡みなかみ町の国有林で行っ

ている生物多様性の復元等の「赤谷の森」での取り組みをパネルにより紹介しました。

2つの目ブースは、木の漢字クイズやしおり作りに参加していただくコーナーを設けました。漢字クイズは、子ども向けから超上級者向けの5種類を用意し、子どもから熟年の方まで真剣に解答に取り組んでいただきました。答え合わせでは、読み方の分からなかった漢字が、意外と身近にある木の名前であることなどを知り、「なるほど」と関心される方や「こんな漢字を書くの！」との声が聞かれました。しおり作りには、多くの子どもたちが訪れ、思い思いに台紙に押し葉や押し花をはり付けて作成していました。柔軟な発想を持つ子供たちの作品には感心させられるものが数多くありました。



木の漢字クイズコーナー



しおり作りコーナー

併せて、(公社)群馬県緑化推進委員会、群馬県、前橋市、(財)群馬県森林・緑整備基金との連携による「緑の募金推進中央キャンペーン」として、苗木配布会を開催する中で広く緑化の普及啓発を図るとともに、「緑の募金」活動への協力をいただきました。



「緑の募金」活動の様子